

学校運営計画（4月）					評価	
学校運営方針		人間教育に主眼を置き、将来、国家・社会に貢献できる人材を育成する。 年度重点目標				
昨年度の成果と課題 学校創立以来本校は、高い進学実績や先進的英語教育の研究開発等多くの実績を培い、地域の信頼を築いてきた。令和元年度には全国高校生英語ディベート大会に4年連続で出場を果たした。SSHの取組では、日本学生科学賞福岡県審査において、3年連続で最優秀賞受賞を果たした。また、大学入試においても、多数の国公立大学合格を残した。今後は全職員の共通理解と協働体制の下、心身ともに逞しく高い知性と豊かな人間性を備えた生徒を育成すべく文武両道を標榜し、第一希望進路を実現する進学校としての学校作りを行う。		1 教育活動の充実 校訓を軸としてあらゆる教育活動において「社会を生き抜く力」を培い、心身ともに逞しく、高い知性と豊かな人間性を備えた生徒を育成する。この目的を達成するために日々充実した教育活動を展開し、自己実現と社会貢献を目指して、生徒一人一人の進路目標を達成させる。また、高大接続システム改革や新学習指導要領をはじめとする教育改革の動向を注視しながら、新しい時代にふさわしい教育内容・教育方法を総力をあげて探究し、創造する。			具体的目標 ①思考力・判断力・表現力を育む質の高い授業の実践と各教科の協働体制等を構築し、授業改善と評価方法の改善を推進する。 ②英語科を軸とした英語教育と数理コミュニケーションコースを中心としたSSH研究開発による理数教育の充実発展を図る。 ③生徒の主体的活動を推進し、全職員の共通理解と協働体制のもとに、毅然とした態度で日々の生徒指導を徹底する。 ④第一志望の進路実現を目指す。 ⑤自他を敬愛・尊重する人権教育の進展を図り、「いじめ」をはじめとする人権侵害を撲滅する。 ⑥同窓会をはじめ地域人材の教育力導入を図り、本校の教育活動、実績等を各方面に精力的に広報する。	
2 特色ある学科・コース 本県高等学校を牽引する「英語科」を軸とした英語教育や「普通科数理コミュニケーションコース」を軸としたSSH研究開発による理数教育を両輪として教師力と組織力を高めることにより、学校全体の普通科教育の充実発展をめざす。		3 「学校力」の向上 地域とさらなる連携を図り、地域に貢献する開かれた教育活動や教育成果の地域への積極的な情報発信を通して、地域に信頼され、期待される「新たな伝統校」をめざす。				
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価（3月）	次年度の主な課題	
学務部	教務課	1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	①授業改善プロジェクトチームと連携し、各教科において授業のあり方を検討する。 ②授業評価アンケートを2回実施し、授業方法や評価方法の検証・改善を図る。			
		2 情報共有による組織力の充実と業務の効率化	①マニュアルなどを作成・共有し、業務の効率化をする。 ②定期考査時間割の年間計画を作成する。			
	教育振興課	1 教育活動がスムーズに行なえる環境の整備	①職員室、印刷室、給湯室等で整備が必要な箇所を調査する ②月に1回教育振興課で職員室を整理整頓する			
2 PTA・同窓会との連携		①PTA役員会に出席し、保護者との連携を図る ②各行事のスムーズな運営に向けて事前に会議を行い、業務内容確認を徹底する				
3 より円滑に実施される行事		①情報共有のため、申し送り事項を生かした課会議を年間12回実施 ②教育振興課が使用している掲示物等の整理整頓する				
生徒部	生徒指導課	1 礼節を重んじ感性に富んだ品格ある生徒の育成	①校外マナー向上。ネットマナー向上。苦情件数0・ネットトラブル0を目指す。 ②地域に貢献できる活動を年間3回以上計画する。			
		2 逞しく、リーダーシップを発揮できる生徒の育成	①部活動の活性化、福岡県高体連総体学校表彰50位以内を目指す。 ②生徒主体による学校行事運営。			
		3 保護者・地域との連携の強化	①ホームページ更新50回を目指す。 ②タイムリーな情報発信と情報収集を行う。			
保健課	保健課	1 心身の健康の保持・増進	①身体計測及び各種検診活動を円滑に行い、治療勧告の徹底化や疾病予防に役立てる。 ②スクールカウンセリングを生徒・教員が利用しやすい日時に設定し、事業を有効活用していく。			
		2 快適な学校生活にむけた環境と美化の向上	①美化意識向上にむけて美化委員会を中心とした生徒主体の環境美化運動を展開していく。 ②資源再生及びゴミ処理費用の節減のため、ゴミの減量（昨年度5%減）を目指す。			

進路部	進路指導課	1 職業観の涵養と進路選択力の育成	①進路講演会、社会人出前講座等の進路行事の充実を図る。 ②SS科学探究・SS総合科学探究と連携し、学年に応じたキャリア教育を計画的に推進する。		
		2 進路達成のための学力養成	①課外授業・補習授業・土曜セミナーの充実を図る。 ②小論文指導、総合型・学校推薦型選抜入試指導の系統立った体制づくりを行う。		
		3 教師の進学指導力の向上	①効果的な進路先検討会を計画し、実施する。 ②大学入試問題研究委員会における検討を通して、進学指導力の向上を図る。		
	広報課	1 香住丘高校での体験事業の充実・拡大	①従来のオープンスクール1回に加え、学校説明会を保護者向けと中学生向けに計2回実施する。 ②高校一日体験やPTA学校見学を積極的に広報し、申込数の増加を目指す。		
		2 各中学校への訪問事業の充実	①中学校訪問と塾訪問をそれぞれ年2回実施する。 ②出前授業を積極的に広報し、申込数の増加を目指す。		
		3 情報発信の整備・充実	①HPの定期更新とメール配信の積極的活用により、利用数の増加を目指す。 ②電子掲示板や校外掲示板を効果的に活用するため、定期的に更新する。		
研究開発部	SSH推進課	1 全教科・科目における指導と評価の改善	①授業改善プロジェクトを推進し、教科指導の改善を更に推進する。 ②一般教科の評価法の改善を更に推進し、指導と評価の一体開発を目指す。		
		2 全学科・コースの探究教科の指導法と能力評価法の一体開発	①数理コミュニケーションコースの探究教科の更なる充実を図り、外部発表会への参加を促す。 ②学校設定教科「SS総合科学探究」の指導法・評価法の更なる改善・充実を図る。		
		3 高度な科学研究を推進する科学技術人材の育成プログラムの開発	①大学等と連携し、「環境科学探究講座」「先端科学研究講座」「先端科学研修」を10回以上実施する。 ②科学コンテストや大学・学会等が主催する研究発表会で、延べ25回以上の入賞数を目指す。 ③課題研究発表会等での英語による研究発表を奨励する。		
		4 SSH事業成果の広報と第Ⅱ期SSHの検証・評価	①SSH事業を通してPTAや同窓会との連携を図り、本校の広報活動を更に推進する。 ②近隣の小中学校との連携したJSS(小学生科学実験講座)や、「SSH news」によって広報活動を推進する。 ③「SSH研究開発報告書」「生徒課題論文集」等の作成を通してSSH事業の成果を検証・評価する。		
	研修図書課	1 全教科における授業方法と評価方法の改善	①授業改善プロジェクトや大学入試問題研究委員会などと連携し、授業改善のための職員研修を年5回以上実施し、その充実を図る。 ②校外研修への参加を積極的に促し、全体に還元できる仕組み作りを推進する。		
		2 生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実	①年間での図書館利用、生徒の読了冊数、年間貸出数の数値目標を掲げ読書活動の充実を図る。また、読書の質向上も目指し新書推奨や、新聞読書の企画・実施を行う。 ②電子掲示板を用いた推薦図書の紹介や図書館終礼の実施を企画し図書委員会の活動を活発にするとともに、探究型教科・科目の学習に対応できる図書館の整備に努める。		
英語学科	1 英語学科の特色ある授業や行事を通じた国際的視野を持つ生徒の育成	①英語学科の行事(夏研修・外務省講座・JAPANプレゼン・クリスマススキットなど)を実施する。 ②英語学科の卒業生による東京外語大生・九大生講話を実施する。			
	2 英語学科の専門科目指導や対外試合出場を通じた総合的な学力の育成	①県英語暗唱・スピーチ・英語ディベート&エッセイにおいて九州大会以上に入賞する。 ②2年次終了までに、英検2級全員合格、3年12月までに1級・準1級6名以上合格する。また、東京外大・九州大学を含む難関大学3名以上合格、国公立大学20名以上合格を目指す。			
	3 英語学科の広報活動の充実改善	①『英語科NEWS』を8回発行し、英語学科の生徒の活躍や実績を校内外に知らせる。 ②第4・5・6学区の進路相談事業、塾、中学校への広報活動を組織的に実施する。			
数理コミュニケーションコース	1 コース独自行事の発展とコース内の連携の充実	①コース独自の研修を通して生徒の興味・関心の喚起、思考力の向上を目指す。 ②コース担当教員が学年を越えて連携する体制を整える。			
	2 進路実現へのサポート体制の構築	①進路実績は九州大学等(旧帝大)5名以上、国公立大学60%以上を目指す。 ②卒業までに、英検2級取得10名以上、準2級取得30名以上を目指す。			
	3 コースの校内外に対する広報活動の推進	①中学校・学習塾への広報活動を推進する。 ②本校職員全体へのコースの理解と情報共有を図る。			
学年	第1学年	1 規範意識の向上及び基本的生活習慣の確立	①挨拶や掃除の徹底させるために教師自らが手本となり、指導していく ②出席皆勤者250名以上を目標に、遅刻・欠席指導をきめ細やかに行う。		
		2 学習習慣の定着と進路目標の確立	①学習日誌を活用し、週平均1日3時間以上の家庭学習を定着させる。 ②九州大学を参考に進路学習を進め、適切な文理選択や高い目標設定を促していく。		
		3 教育相談活動の充実	①各学期に1回、面談週間を設けて生徒理解や諸問題等の未然防止や早期発見・対応に努める。 ②教師間の情報共有を密にし、状況に応じてSCの活用を行い、生徒支援や保護者対応に努める。		
	第2学年	1 香住生としての自覚と誇りを持たせる	①互いに挨拶をしたり、場を清める高校生活を送りながら、他者を尊重し、自己を磨く態度を育てる。 ②社会的公共心を遵守すると共に、香住生としての品格を自覚させる。		
		2 学習意欲や自ら学ぶ態度を向上させる	①大学受験のみに囚われない幅広い知識と教養を身につける。 ②大学共通テストの情報をいち早くキャッチし、生徒の学習意欲に繋げる工夫をする。		
		3 リーダーシップの育成	①生徒会や部活動に対して個人レベル、チームレベルでリーダーシップを発揮させる。 ②リーダーシップを発揮できる機会をなるべく多く与える。		
	第3学年	1 他を尊重し、合理性を備えた生徒の育成	①学校生活で他を尊重できたかを、学習日誌を利用して確認させる。 ②学校生活を通して、合理的・論理的な行動ができていくか確認する。		
		2 正しく学び、学力を向上させる	①授業の中で、教科担当および担任が生徒の学習方法に関するアドバイスを行う。 ②生徒が主体的に学習に取り組むような仕掛けを各教科で行っていく。		
		3 進路志望の実現	①将来、生徒がどのように社会貢献していくかを考え、進路実現を目指す。 ②教員、生徒、保護者の連携を図り、具体的な進路指導を行っていく。		

人権教育	1 人権意識を高めあう人権学習の創出を図る。	①各学年とも、特設授業ごとにチームを作り、各学年の課題に対応した授業案を学年所属の職員全員で作成に取り組むようにする。 ②職員間での意見交換会を特設授業毎に最低2回は実施する。				
	2 指導者としての科学的認識と実践力の向上を図る。	①年2回のクローバープラザでの研修に参加し、指導者としての資質の向上を図る。 ②福岡市人権啓発センターの勉強会に参加する。				
	3 職員の人権意識の向上に努める。	①人権の情報の回覧や、人権研修会の掲示などにより、全職員の人権意識の涵養を図る。 ②人権研修の報告会を年度末に実施する。				
事務部	1 特色ある学校づくりのため、校内で少なくとも1か所以上の環境改善を図る。	①各分掌の要望を確認し、今後の学校の方向性に合致した施設・設備改修の予算要求を行う。				
	2 各分掌と事務室との連携を推進するとともに、関係団体との良好な関係づくりに努める。	①各部との連携を密の行い、必要な環境整備を進める。 ②学校周辺との情報交換に努め、今後の広報の在り方を検討する。				
	3 定期的な施設の点検を徹底するとともに、校内の危険個所の把握及び改善に努める。	①環境整備班と連携し、定期的に校内を巡回するなど危険個所の把握に努める。 ②施設・設備の適正な使用を促進し、教職員の理解・協力を徹底する。				